

2017/2/14

(日々雑感 15)



近頃の若い人たちの言葉で「キャラ」というのがあります。

「ええ！？あの子、そういうキャラなの？」

とか言うように使っているようです。

「キャラ」とはキャラクター。元々は人格のことです。それが転じて、ある意味、キャスト、配役や役柄の意味にもなっているようです。

そういう言い回しの元がどこにあったのかと思い返してみると、ぼくが30代の頃に、朝日新聞に載った劇作家つかこうへいの三億円強奪事件についての投稿記事をおもいだしました。

それは何故未だに三億円強奪犯人が見つからないかについて書いた一文でした。

曰く、「熱海殺人事件同様、犯人は既に逮捕されている。しかし、今はまだ、世間を騒がせた三億円強奪事件の犯人像に見合った姿（キャラ）になっていない。それで逮捕する方もされる方も逮捕して恥ずかしくない、されて恥ずかしくない姿（キャラ）になるために警察と協力しながら、必死に取調室で特訓をしているところなので、まだみんなの前に出れずにいるのだ。その姿（キャラ）に匹敵する日が来た暁には、取調室から出て、皆さんの前に堂々とした晴れの「決め姿」を見せるに違いない」というような展開でした。

この日以来、人生は芝居だ。人は人格や性格ではなくて、たんなる役回りか役柄に過ぎないというような流れが出来たような気がします。それは一種、本人自身を周りから守るプロテクターのような役割を果たすようになったような気もします。しかし、また逆にその殻（から）の中で、呼吸困難になって窒息する面もあったかもしれません。

無論これはぼくの全くの独断的観察によるものです。

そんな中、今日は天皇陛下と皇后陛下を人としてみた場合のお話をします。平成天皇と平成皇后様ではなくて、明仁さん（＝今上天皇）と美智子さん（＝今上皇后）として見た場合のお話です。戦前なら即、不敬罪で逮捕拘束でしょうけれど、まあお許してください。

ところで、天皇陛下と皇后陛下は恐らく日本で一番有名な人たちでしょう。お二人の一挙手一投足に、常に国内外の耳目が集まります。

有名が好きな人なら誠にうれしいことではあるのですが、そうではない人にとっては、これはもう地獄です。常に衆人環視の元に置かれているようなもので、プライバシーもへったくれもありません。ある意味、人としてみた場合、人権侵害にもなりそうです。

とにかくおなら一つ自由に出来ない日々。恐らくお二人ともくたくたなのではないかと心配にもなります。

その推測からすると、陛下が現役降位をなされる気持ちがよく分かる気がします。表向きは、気力体力の衰えから公務を果たせない、それでは迷惑がかかるとおっしゃられているようですが、本心の一部には「最後くらい、静かに暮らさせて！！」の思いがあるのではないかと推察するのです。

それにしても、明仁さんと美智子さんは、人としてみた場合、とても人柄の良い人たちだと思います。

「いつも苦しむ民に御心を痛められている」と書くとまたまた上下が発生してしまいますので「いつも辛い思いをしている隣の人を気遣っている」のが感じられます。

それは、その発言よりも、二人のお顔、表情を見れば分かります。

とても良い人柄の人たち。

この場合のキャラは人格でもなく、役柄でもなく、お二人の場合は「人柄」なのだと思います。

誠に不躰な言い回しをお詫びいたします。

なお、ぼくは右翼でも左翼でもなく、ひととしてお二人を心配している隣人にすぎないことを最後に付け加えさせていただきます。